医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所（二日町）
在宅療養支援有床診療所（浦佐）

もえぎ 3

Vol. 394
2025/3.15

藤井トク さん書

越後浦佐毘沙門堂裸押合大祭
撮影地：南魚沼市浦佐　普光寺
撮影者：小林　順正

INDEX

2 皆川秀夫先生へ　感謝のことば
3 死者と生者の共存／コラム
4 第1回
5 『食べる幸せを支える魚沼の会』報告
6 黒岩卓夫一代記
7 裸押し合い祭り／ひな祭り行事
8 利用者紹介／ふみ／編集後記

皆川先生20年間ありがとうございました!

萌気会　理事長
萌気園浦佐診療所　院長　黒岩　巌志

皆川秀夫先生へ感謝のことば

皆川先生には、20年間、萌気園二日町診療所の院長として萌気会の医療を支えていただきました。萌気会創立から33年、二日町診療所創立から26年なので二日町診療所は皆川先生が育ててくれた診療所ということになります。

皆川先生は千葉県出身で、出身大学は千葉大学。専門は泌尿器科・皮膚科です。医師紹介会社を通して2004年4月に赴任されました。

診療面では膀胱・前立腺・皮膚に関して分からないことがあれば相談させていただき助けていただきました。私が以前訪問先で膀胱留置カテーテルの挿入ができずにお手上げ状態だった時、皆川先生が二日町診療所から患者宅に駆けつけてくれて挿入して頂いたことがありました。まさに救世主現る!!でした。

私は浦佐診療所勤務だったので普段は滅多にお会いできないのですが、診療や会議などで二日町診療所に立ち寄った際に私からお声掛けするときはいつも穏やかな笑顔で受け答えしていただき、自分もこう振舞えるよう努力しなければ・・・といつも思っていました。

忘年会の時に印象に残っているのは、冗談を言って周囲を笑わせている皆川先生の姿です。なかなかマネできる事ではありませんが自分も周囲を笑わせられる人になりたいと思いながら拝見していました。

昨年10月、お酒が好物の皆川先生と二日町スタッフ数名で飲み会を開きました。美味しいお酒とともに皆川先生のプライベートのお話などを沢山お聞きし、とても楽しい時間を一緒に過ごすことができました。初孫娘(みおちゃん)の話を満面の笑顔でされていたのが印象的でした。

千葉県から縁遠いこの豪雪地域南魚沼で20年間にわたり当地の医療に貢献頂いたことに心より感謝申し上げます。

この後の先生の人生が幸多きものとなることをお祈りいたします。

事務局
秘書室主任　笠原　縁里

皆川秀夫先生が2025年3月26日の勤務を最終日に退職されます。

2004年4月より昨年11月までの20年以上を二日町診療所の院長として務められました。私は主に休日・夜当番についてのやりとりをさせていただいていました。二日町診療所は2022年4月まで365日営業でしたので、年末年始・土日・祝日の勤務当番もあり、そして診療所ではありますが在宅訪問診療も行っているので夜間帯の当番もあります。皆川先生は平日勤務はほとんど休まれることなく、月1回週末当番や祝日勤務もされていました。そんななかでも急な当番日の交代依頼など、ドキドキしながらの相談をいつも快い雰囲気で行ってくれたことがありがたかったです。

個人としては子ども・親の体調不良時はかかりつけ医として診ていただき、何より大好きだった祖母を在宅で、夜中に来ていただき看取っていただいたことが私は本当にうれしかったです。皆川秀夫先生ありがとうございました。

萌気会　相談役
黒岩　卓夫

死者と生者の共存

私はこれまで老いと死を考えてきた。しかし今回は老いをぬいて生と死を語ってみたい。

急な印象を与えてしまうが、古代ギリシャの墓碑「死者と生者の共存」を紹介したい。たまたま手にとった「生と死の美術館」(岩波書店)第三画にとりつかれてしまった。

ギリシャの古代墓地ケラメイコス出土の前四世紀の「少女の墓」だ。男ではなく少女だが。アテネ国立考古学博物館に蔵されているものだ。

墓碑は大理石のレリーフで、父母と少女の像だ。死んだ少女と両親だ。見とれるだろうか、「薄明のかげりのなかで、母の視線をこらえながら、その手をそっととる。その少女の愁わしげな眼差し、もの問いたげな唇—。」

古代ギリシアの墓碑　前4世紀　アテネ国立考古学博物館蔵

しかし、それは死の悲しみを悲しんでいるのではない。三人の想いは一つの世界に溶けこみ、お互いの心から心へと永遠に回帰していく。ここにはなお、少女の生前の日常の時間がやさしく流れている。永遠の時間が流れているとしか思えない静謐なトポス—。

このギリシャの生と死も心を通わせているレリーフで私は三男乙水(いつみ)の急死を思っている。この死のショックから、まだ立ち直れない自分を、なんとか引き立てるようにと、このレリーフの親子像に救いを求めている。

この少女の像を乙水の像に置き換えている自分を眺めている。古代ギリシャ人のようになれるか！

安心コラム

老衰

「老衰」という言葉はただ年を取って心身ともに力がなくなったことを意味する。しかしこの言葉をどう使うかは複雑だ。死亡診断書の「死亡名」につけることもあるが、それを嫌う医師もいる。人生を家族からみると、妻・子・孫・ひ孫と皆それぞれ家族の一員だ。

そして「死」まで思うと、簡単に定義することはむつかしい。

私は「老衰」は、「生」と「死」が半分づつ共存している状態を考えたい。死あっての生と眺めたい。

そして生と死の間に「老」をおかないと生と死もわからなくなる。

第1回
『食べる幸せを支える魚沼の会』報告

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巌志

先月8日、魚沼基幹病院講堂で第1回『魚沼の食べる会（略称）』が開催された。代表は、魚沼市立小出病院院長の布施克也医師、副代表は私、事務局長は魚沼基幹病院リハビリ科兼総合診療科医師の大西康史医師である。この会の主な目的は、摂食嚥下における『技術』『経験』『想い』を多職種で共有し、皆が対等に話し合い、学び合うことである。今回の参加者は約130人（約50人が会場参集、約80人がオンライン参加）。魚沼圏域だけではなく圏域外からの参加もあった。

会の前半は、摂食嚥下障害における医療倫理の分野で御高名である浜松市リハビリテーション病院特別顧問藤島一郎先生による特別講演。タイトルは、『高齢者の「食べる」に向き合う～臨床倫理の視点から』。嚥下機能が低下し誤嚥性肺炎を繰り返す患者が、死んでもいいから好きなものを口から食べたいと望んだ時、『医学的に命を失う可能性が有り食べるべきではない』と『自分の生死は自分で決める権利があるので食べる』ことは相反するが両方とも正しい。どちらを選ぶか?は『命』にかかわることであり簡単に結論は出せない。講演では、判断に苦しむ事例を紹介しながら、結論を出すまでの過程において大切なことを教えて頂いた。演者は、『患者の意向』『患者の価値観』『患者の人生観』『患者の治療目標』『患者の意思表明能力』『家族の希望』『本人以外の誰の意見を尊重するか』『家族による代理判断の適否』『医師による病状・余命判断、治療方針』『飲み込む能力』『胃瘻の功罪』などについて本人、家族、主治医、関係多職種が車座になって繰り返し時間をかけて意見交換することで『患者にとっての最善』に近づけるよう努力することが大切であると述べていた。『命』がかかわる『医療倫理』、命を目の前に、医療・介護者として、そして人としてどう振舞うべきか?・・・直ぐに答えが出なくてもいい、皆で繰り返し話し合う過程が最も大切であることを教えて頂いた。

後半のシンポジウム『食べる幸せを支える私たちの取り組み』では、魚沼基幹病院脳外科医師、県立十日町病院脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、魚沼市立小出病院管理栄養士、南魚沼市民病院言語聴覚士、南魚沼市内介護事業所管理者（ケアマネ）と4医療機関、1介護事業所から異なる職種の5人にそれぞれの立場から活動報告をして頂いた。座長は私と湯沢医療センターの管理栄養士柳真紀さん。多職種が密に連携し、患者・家族にしっかり寄り添いながら最善の着地点を見出す・・・それぞれの機関での様々な活動報告はどれも示唆に富む素晴らしい内容で多くを学ばせて頂いた。

今後とも『食べる幸せを支える魚沼の会』へのご支援、ご協力を頂けると幸いである。

参加者の声

浦佐栄養調理室
久川　真美

口から食べると言う事は生きて行く為に最も大切な事です。栄養を摂取するだけではなく 人生の喜びや、意欲、人との繋がりを育みます。最期まで好きなものを好きなだけ食べる事が一番の幸せだと思っています。

●嚥下障害や病気などからで制限をかける

食べさせたいけど食べさせる事が出来ない現状。禁飲食でのリスク回避を選ぶのか？

●本人の「食べたい」という気持ちを優先するか、どれだけ尊重できるのか？

本人、家族、多職種 それぞれの立場からの意見をすり合わせ、その人にとって何が一番の幸せに繋がるのかを考えていく事が大切なのだと思います。

管理栄養士として、毎日の業務を行いながら色々なケースで難しさを実感しています。

今回の研修で多方面からの話が聞くことが出来とても良い勉強になりました。

萌気園浦佐有料老人ホーム「ハイマートハイム島田」
介護職員　小林　成美

食べることってなんだろう。生存？生きるため？…でも、私は生きるために食べることはできても『おいしく』はならないと思いました。じゃあ、『おいしい』とは、なんだろう？ハイマートの利用者さんには甘いものが好きな人が多いけど、世の中には苦いコーヒーを好む人だっているはずです。

それにどんなに美味しいものでも、独りで食べては『まぁまぁ』に感じてしまうこともあります。そんな時にでも「一緒に食べたいなぁ」「おいしいから、おススメしたいなぁ」とか思い浮かべ人と一緒に食べることができたら、しあわせだと感じるんだろうなぁと思いました。

訪問リハビリテーションりらいふ
言語聴覚士　金本　優理

藤島一郎先生の貴重な御講演とシンポジウム、詳しい症例紹介が中心で本当に勉強になりました。「どうしたら本人の意志を尊重しながら安全においしく食べられるか」に正面から向き合う中、医療でも介護でもよく似た悩みやジレンマを抱えているのだと感じました。

お一人お一人の「食べたい」又は「食べたくない」そして「元気に家で暮らしたい」という当たり前の幸せが叶うように多施設、多職種が共に話し合い高め合える、そんな心強い会になっていくのではないかと感じました。

後半のシンポジウムでコメントしている藤島一郎先生

和解ある老いと死

喜捨①

原作：黒岩卓夫　画：福留慶　方言アドバイザー：おかっ★べ

人は誰にでも思い出はたくさんある。でも何かあれば思い出してしまうものもある。さらにどちらかといえば、良い、楽しい思い出だ。すえさんはどうだろう。「あさつき」そして「すぐりの紅い実」、おそらく「あさつき」は亡き夫の思い出か、「紅いすぐりの実」はすえさんの青春かもしれない。できれば聞いてみたい。

裸押し合い祭り

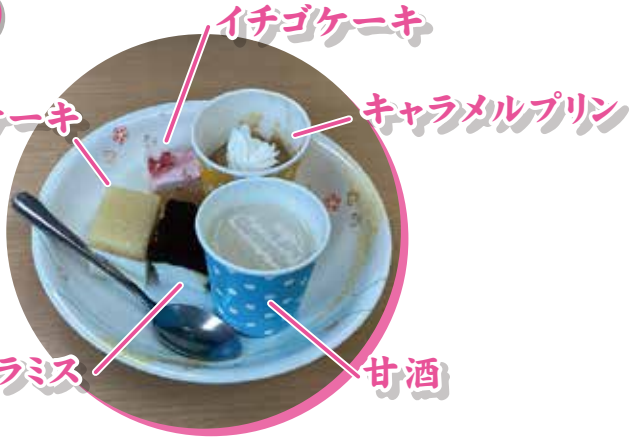
地蔵の湯

3月4日に地蔵の湯では裸押合大祭が開催されました。
地蔵の湯青年団による白熱した押し合いと、福餅撒与を行いました。
福と書いた紙を拾った皆さんと青年団の皆さんです。皆さんにとって良い1年になりますように。

ひな祭り行事

たもんの郷

たもんの郷では、3/3にひな祭りデザートバイキングを開催。甘酒と一緒に数種類のケーキをご用意しました。また、壁に利用者さん達と職員が一緒に作ったおひなさまを飾ってお祝いをしました。



曼陀羅華

レクリエーションの時間などに利用者さんと一緒に作った曼陀羅華のおひなさまとおだいりさま。
たくさんの笑顔を撮影することができ、とても素敵な思い出になりました。

医療法人社団萌気会広報誌
令和7年3月号
毎月1回15日発行

3
Vol.394

うちの利用者さん

通所リハビリセンター浦佐

ここリハビリセンター浦佐は40歳代から103歳。平均年齢80.2歳の中、真由美さんは平均年齢を大きく下回り、何歳とは言いませんが…若手中の若手です。

今の体力を維持して、お風呂やトイレ等、自分でできる事を続けていきたいという目標の為その為に…

・個別運動
・歩行練習
・センター内40Mを4周2セット
・マシン運動8種類を2セット
・自転車こぎ
・レットコードエクササイズ

たくさんの運動メニューをこなされています。

普段車椅子での生活をしていますが、利用中はなるべく杖での歩行を多く取り入れています。真由美さんの歩いている姿をみて、周りの利用者さん達も頑張ろう！と、刺激をもらっています。もちろん私たち職員も頑張っている姿をみて負けてられない！といつもパワーをもらっています。

リハビリセンターに通う諸先輩方はとてもパワフルですが、若手も負けずパワフルに行きましょう！

個別担当　大淵より　自分の体のことをよくわかっていて、いつも一生懸命に運動に取り込んでいる真由美さん。これからも、体力筋力を維持していける様がんばっていきましょう。

大塩　真由美　様

ふみ

萌気園大和通所介護 地蔵の湯

母は、大正、昭和、平成、令和と生きてきて、今年の2月でめでたく百歳を迎えました。同じ村の父と昭和22年に結婚し、新宅として新婚生活をスタート。

昭和26年に周りからの勧めもあり一大決心で商店を始め、主に食料品や、日用雑貨を販売していました。生活のために始めた商売でしたが、村に塩魚などを売りに行くことが恥ずかしくて辛かったそうです。

その後は、たばこ・お酒・塩の免許を取得し、簡易郵便局も開局。周囲でのKCK工場進出、新幹線のトンネル工事、スキー場の開業などが追い風となり、店も順調に進展していきました。

商売に加え、子供4人の子育てに、家事と、どれも手を抜かずに一生懸命励んできました。本当に働き者です。おかげさまで今でも健康で、畑の草取りなどに精を出しています。

現在は週3回「地蔵の湯」さんにお世話になり、大好きな相撲を見たりして楽しく過ごしています。

利用者　井口　ノブ
家族　井口　典男

編集後記

萌気園二日町診療所　曼陀羅華
松井　真理子

今月よりもえぎ新聞委員に仲間入りさせていただきました、曼陀羅華の松井真理子です。

私事ではありますが、他職種から介護の世界に入り、4年目がスタートしました。私生活では子供たちも進学や就職で自立し、自宅で季節の行事を楽しむことも減ってきた中、曼陀羅華では季節を感じることのできる行事が多く、利用者さんと一緒に行事を楽しんでおります。

最近では、3月のひな祭り行事を行い皆さんに楽しんでいただきました。

そして、重い腰をあげ、数年ぶりに我が家にもひな人形を飾り、あらためて日本ならではの季節を感じるきっかけとなりました。

これからも皆さんと一緒に楽しみながらより明るい生活をして行けたらと思います。

よろしくお願いします。

表紙題字　藤井　トク様（萌気園グループホーム「ふきのとう」）
ホームページアドレス：https://www.moegien.jp/